

例 言

一、本書は平成27年度に中津市教育委員会が中津市立鶴居小学校建設にともない実施した発掘調査報告書である。

一、確認調査は浦井直幸が、発掘調査は花崎徹が担当した。

一、現場の遺構図作成、写真撮影は花崎、立澤彩がおこなった。

一、遺物実測、製図、遺構図製図は栗田真弥、吉上かおりがおこなった。

一、本書の執筆、編集は花崎がおこなった。

調査体制

平成27年度

調査責任者 廣畑 功 中津市教育委員会 教育長

調査事務	平原 潤	中津市教育委員会	文化財課長
	高崎章子	同	文化財係長
	大森 建	同	管理係長
	竹内奈央	同	管理係
	長尾淳平	同	管理係
調査担当	花崎 徹	同	文化財係
	浦井直幸	同	文化財係

令和元年度

調査責任者 栗田英代 中津市教育委員会 教育長

調査事務	高尾良香	中津市教育委員会	社会教育課長
	高崎章子	同	文化財室長
	村上豊成	同	管理・文化振興係 主幹
	速水 誠	同	管理・文化振興係
	陽 麻里奈	同	
	渡邊奈津子	同	
調査担当	花崎 徹	同	文化財室 文化財係 主幹

一、発掘現場作業、遺物整理作業は下記のみなさんによる。(敬称略)

阿部恵子、上田和幸、末廣洋子、河原田実夫、渡邊正和、立澤彩、末吉久美、小川禮子、甲斐嘉夫、田中政弘、栗田真弥、吉上かおり

目次

第1章	これまでの調査と周辺遺跡	1
第2章	市場遺跡 5次発掘調査	2
第3章	小結	7
図版1		9
図版2		10
図版3		11
図版4		12

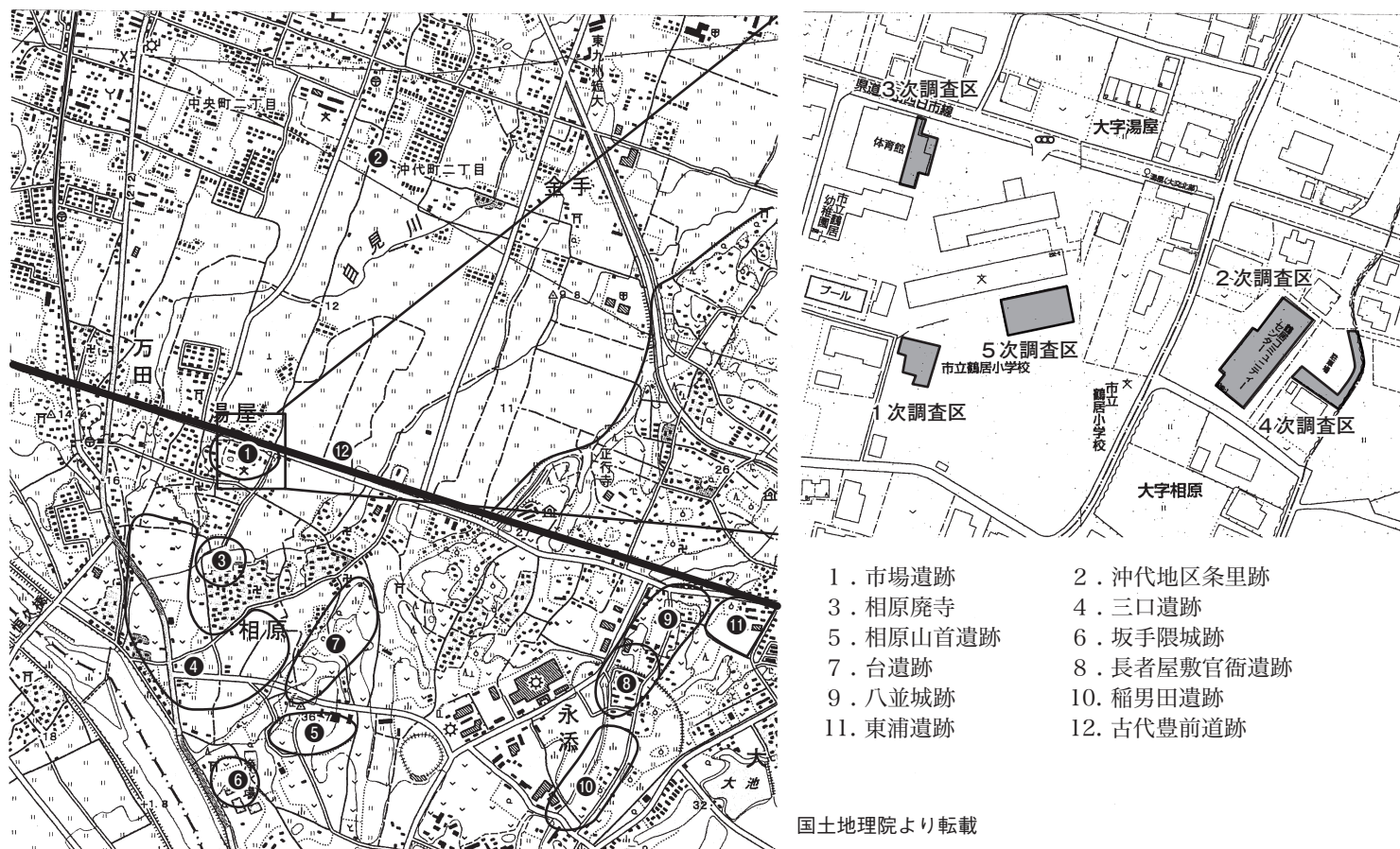
図目次

第1図	市場遺跡周辺図	S=1 / 25,000	1
第2図	市場遺跡5次調査区	S=1 / 100	2
第3図	掘立柱建物	S=1 / 60	3
第4図	竪穴住居	S=1 / 60	4
第5図	竪穴住居出土遺物	S=1 / 3	4
第6図	竪穴住居出土遺物	S=1 / 3	5
第7図	溝状遺構土層図	S=1 / 60	5
第8図	溝状遺構出土遺物	S=1 / 3	6
第9図	不明遺構	S=1 / 60 不明遺構出土遺物S=1 / 3	6
第10図	市場遺跡周辺地目図		7

第1章 これまでの調査と周辺遺跡

市場遺跡ではこれまでに4回の発掘調査が実施されている。平成4年度に鶴居小学校グラウンド拡幅に伴う発掘調査が実施され、古墳時代の集落跡が調査された。検出された遺構は竪穴住居、溝状遺構、道路状遺構である。土坑から鉄屑と羽口が出土したことから周辺に鍛冶遺構の存在が指摘されている。平成20年度、鶴居コミュニティセンター建設にともなう発掘調査が実施され、古墳時代後期の溝状遺構が調査された。溝からは柄振りが検出され、市内の古墳時代の木製農具の初例となった。平成19年度、鶴居小学校体育館建設に伴う発掘調査が実施され、古墳時代の竪穴住居、中世の堀跡が調査された。平成21年度、鶴居コミュニティセンター駐車場建設に伴う発掘調査が実施され、古墳時代の溝状遺構や中世の不明遺構、近世の溝状遺構が調査された。

次に市場遺跡の周辺の遺跡を観てみる。三口遺跡、相原山首遺跡、相原廃寺、沖代地区条里跡、坂手隈城跡などがあげられる。三口遺跡は弥生時代後期の甕棺墓や石棺墓などが近年調査された。甕棺は板状の石材で蓋をした状態で検出された。相原山首遺跡は5世紀中頃から中世の墓域。相原廃寺は7世紀末の古代寺院。伽藍配置は不明であるが基壇や礎石、搭心礎が点在している。沖代地区条里跡は古代豊前道を南限に施工され現在もその地割が残る。坂手隈城跡は台地の南端に立地する城跡。外堀と内堀が残るが主郭は神社社殿が建って不明な状態である。



第1図 市場遺跡周辺図 (S = 1/25,000)



第2図 市場遺跡 5次調査区 (S=1/100)

第2章 市場遺跡 5次発掘調査

調査に至る経緯

中津市立鶴居小学校の児童増にともなう校舎新築の事業が中津市教育委員会施設係より照会された。建設地は市場遺跡として周知されることから、文化財保護法94条を大分県教育委員会へ通知し、発掘調査の実施が決定した。平成27年7月27日に確認調査を実施し、溝状遺構、ピットを確認した。平成28年2月15日～3月28日まで発掘調査を実施した。

調査の概要

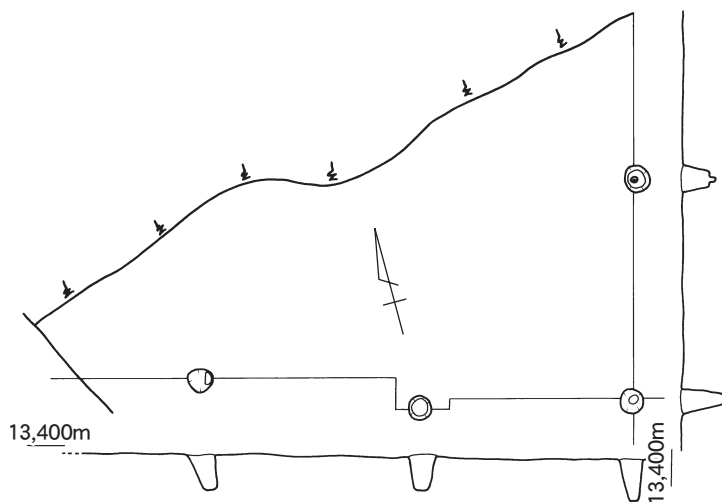
調査区の面積は210㎡で検出された遺構は掘立柱建物1棟、竪穴住居1基、溝状遺構2条、不明遺構1基、柱穴多数である。竪穴住居から須恵器、土師器などが出土した。溝状遺構は平成4年度にグラウンド拡張にともなう発掘調査で調査された続きのものが検出されたと推測される。不明遺構は竪穴住居を切る。全形は不明。

基本層序

表土から約20cmは整地層。2層は約40cmで黒褐色土層。3層が黄褐色の地山で、遺構はこの層から確認された。遺構は遺物の出土状況から2層の下部から掘り込まれたと推測されるが、遺構の明確なラインを検出できなかった。

掘立柱建物

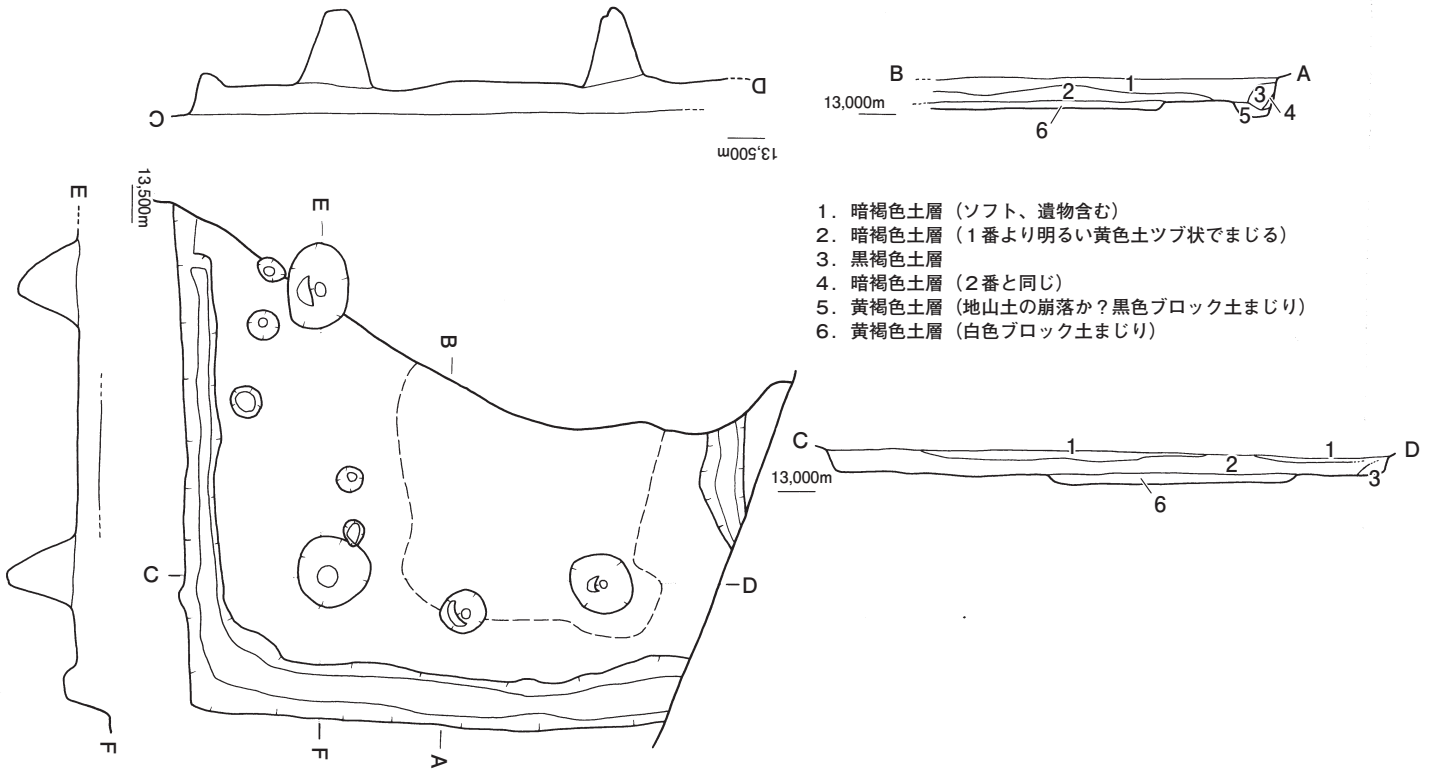
調査区の西部で掘立柱建物を1棟検出した。全形は不明。柱穴の深さは26cm～35cmを測る。直径は18cm～22cmを測る。柱穴間は約170cm。黒褐色の埋土で出土遺物は1点もなく時期は不明。溝状遺構とほぼ直交することから、溝と同時期であろうか。



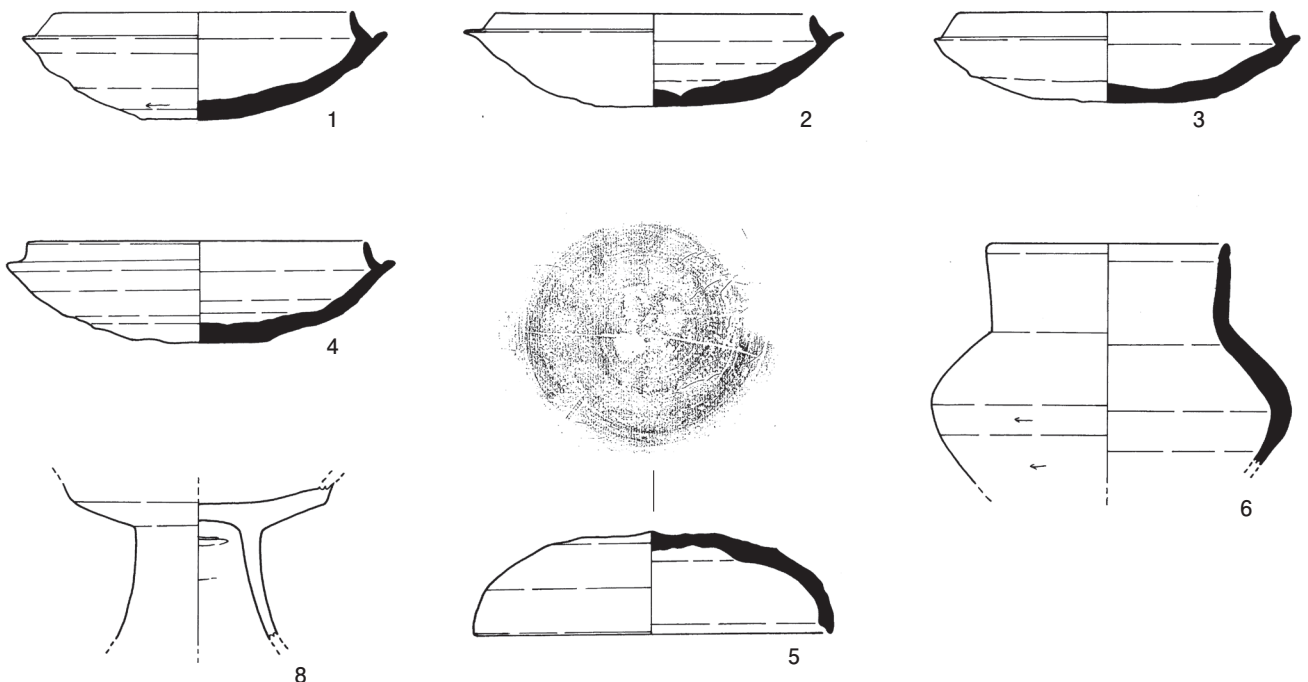
第3図 掘立柱建物 (S=1/60)

竪穴住居

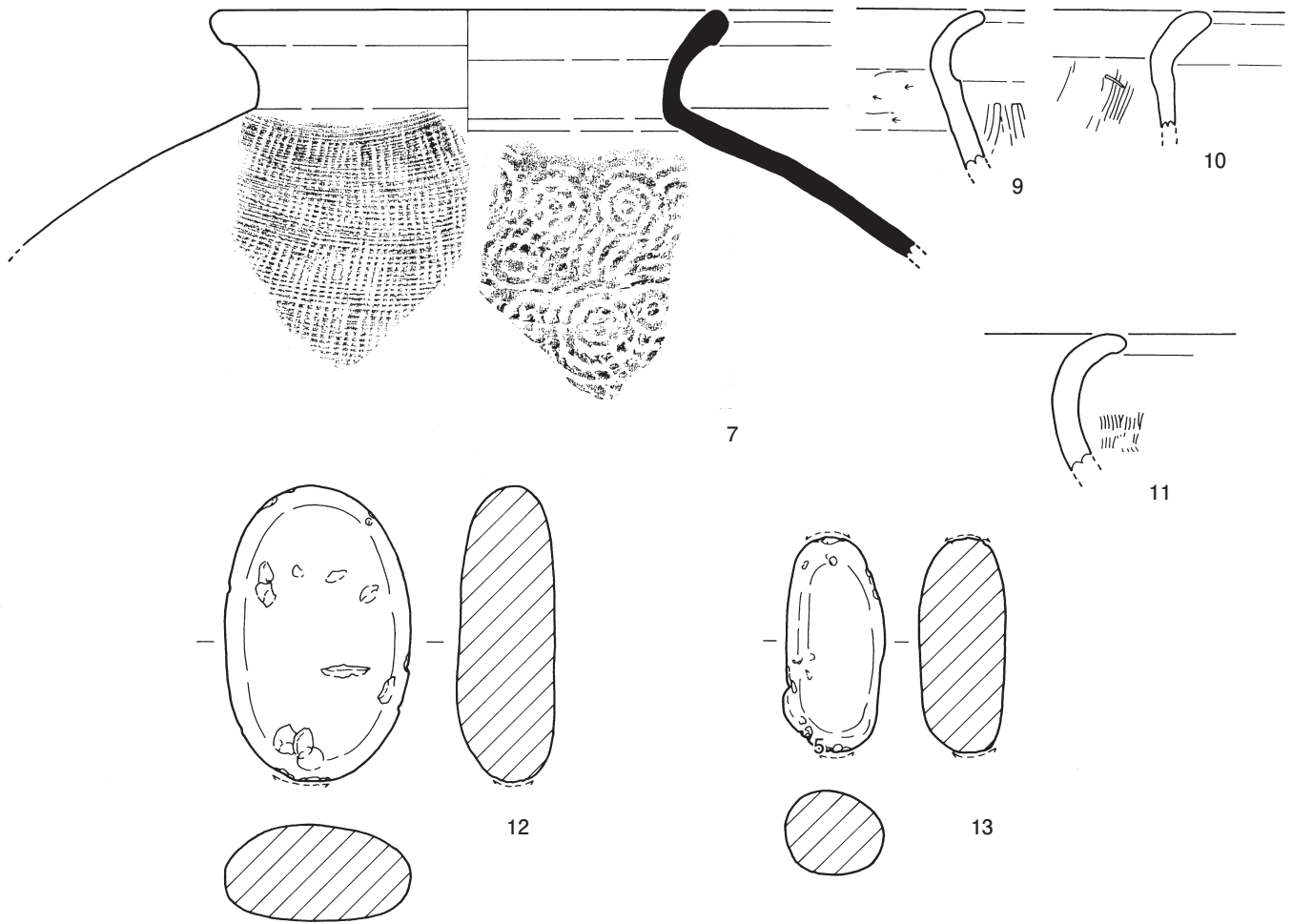
調査区の東北部で竪穴住居が1基検出された。不明遺構に切られ全形は不明であるが、東西に約440cm、南北に約440cmの方形と推測される。住居内壁面直下に周溝が掘り込まれる。溝の深さは約10cm、幅約30～40cmを測る。支柱穴は不明遺構に切られ一部不明だが4基であったと推測される。柱穴の深さは約47cm～61cm、直径は約52～68cmを測る。住居内中央やや東寄りの床面に貼り床を施す。カマドは確認できなかったが北壁面に造りつけられたと推測される。



第4図 竪穴住居 (S=1/60)



第5図 竪穴住居 出土遺物 (S=1/3)



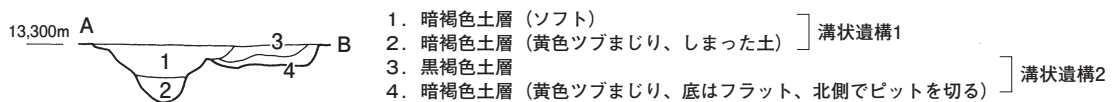
第6図 竪穴住居 出土遺物 (S =1/3)

遺物

1～4は須恵器の坏身である。1は口径11.7cm、器高4.25cmを測る。2は口径12.6cm、器高3.6cmを測る。3は口径12.3cm、器高3.5cmを測る。4は口径13.2cm、器高4cmを測る。5は須恵器の坏蓋である。口径14.2cm、器高5.1cmを測る。天井部にヘラ記号あり。6は須恵器の直口壺である。口径9.5cmを測る。口縁直下の内外面に1段の沈線を有する。外面底部は回転ヘラ削りを施す。7は須恵器の甕である。復元口径21cmを測る。内面に同心円あて具痕、外面に平行タタキ後カキ目を施す。8は土師器の高坏である。内外面とも摩滅が著しい。9～11は土師器の甕の口縁部。12、13は敲石。12は最大長12.2cm、13は最大長8.9cmを測る。

溝状遺構

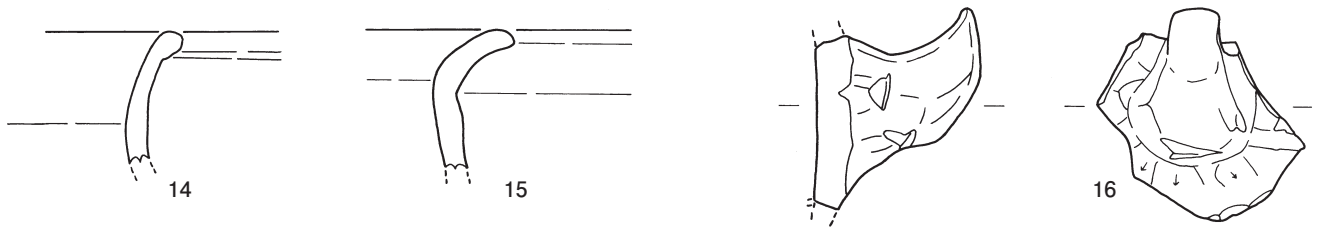
調査区内の西部で溝状遺構2条が検出された。溝状遺構1が溝状遺構2を切る。溝状遺構1は最大幅約102cmを測る。最大深約45cmを測る。壁面や底に無数の掘り込み痕が確認される。溝状遺構2は最大幅100cm、最大深17cmを測る。底はフラット。



第7図 溝状遺構土層図 (S =1/60)

遺物

14は須恵器の壺か。15は土師器の甕。内外面とも回転ナデを施す。16は土師器の取っ手。



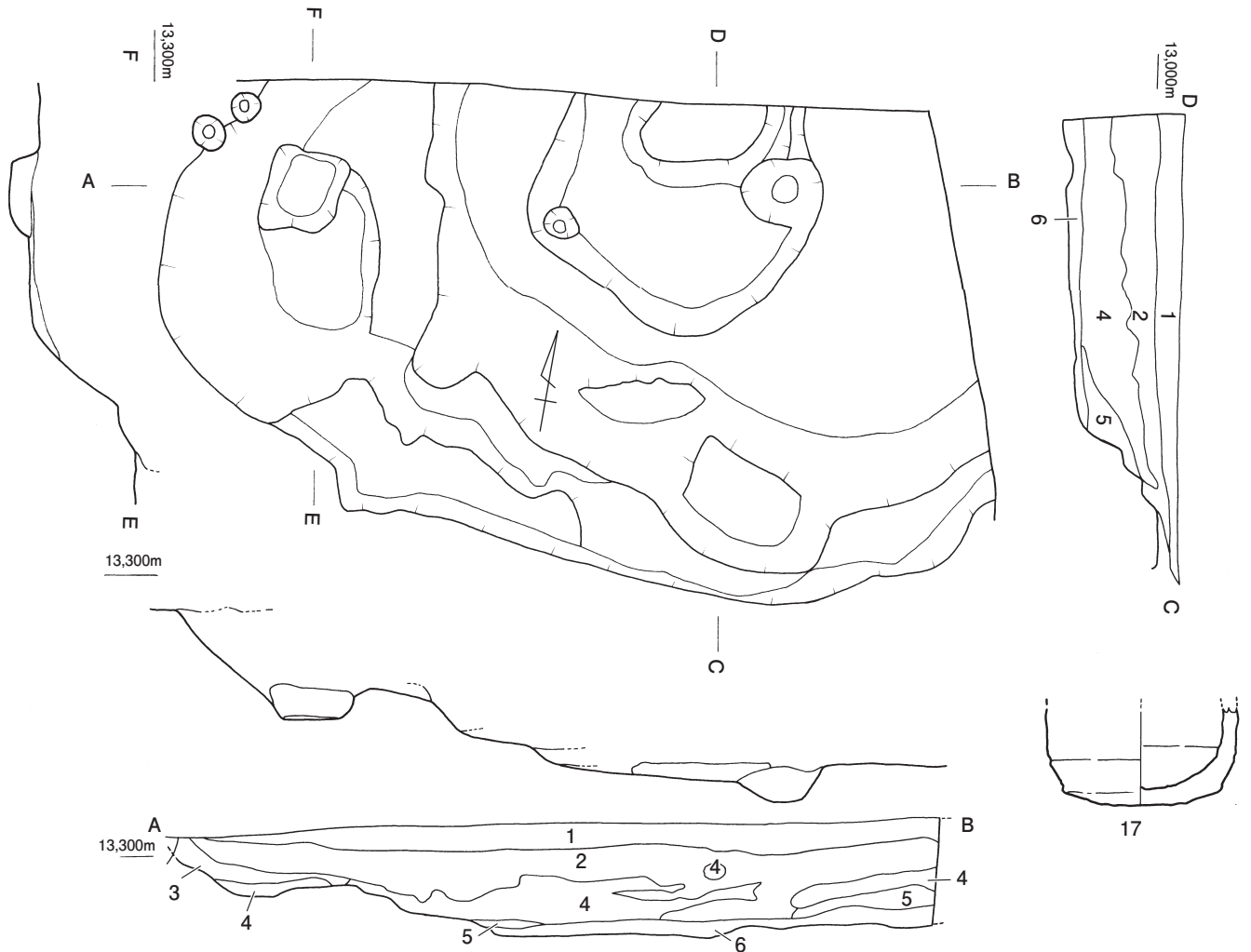
第8図 溝状遺構 出土遺物 (S=1/3)

不明遺構

調査区の東北端で不明遺構を検出した。竪穴住居を切る。全形は不明。最大深約130cmを測る。壁面の凹凸が著しい。土取り跡であろうか。

遺物

17は土師器の蛸壺か。底径6.6cmを測る。



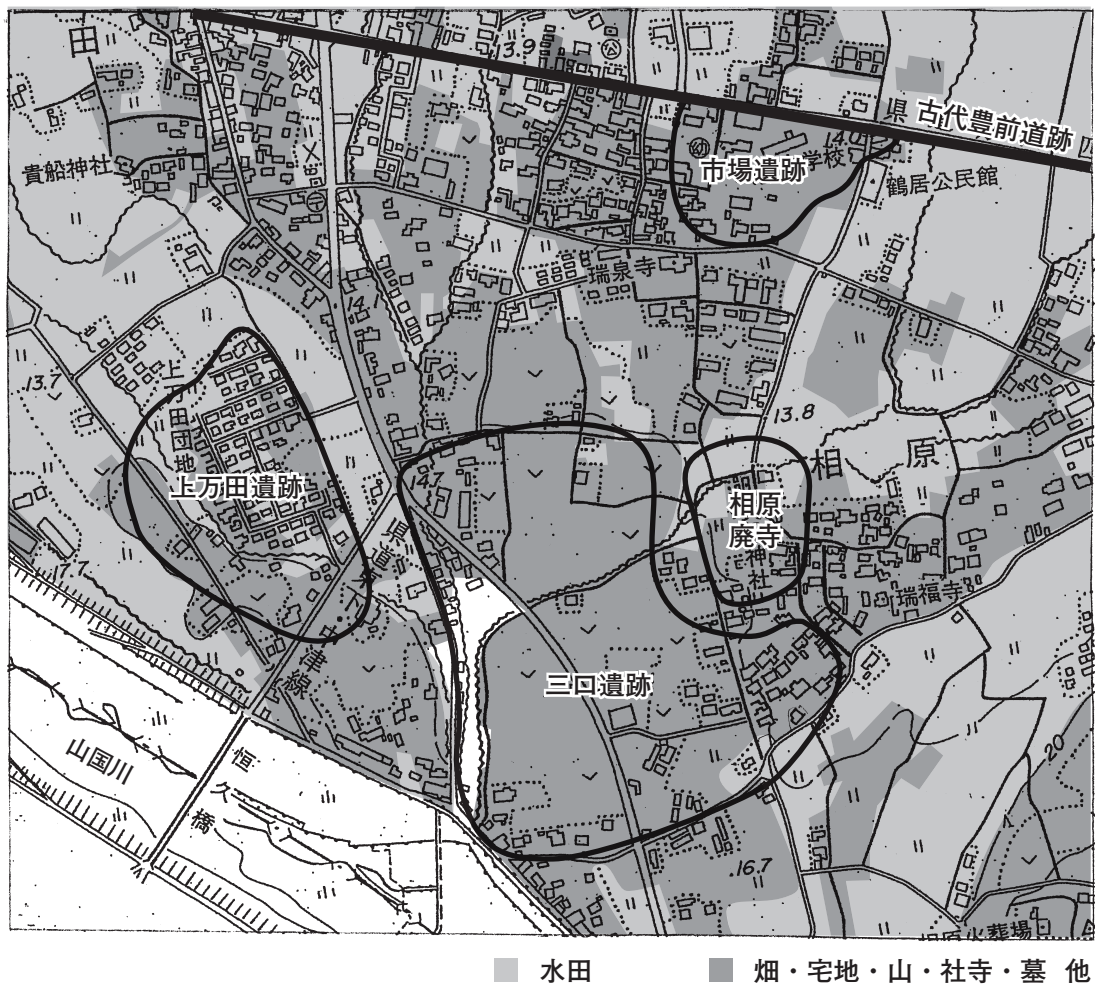
1. 暗褐色土 (ソフトしまりなし、鉄屑、弥生土器、土師器片を含む)
2. 暗褐色土 (黄色ブロック土少含む、弥生土器、土師器片を含む)
3. 黒褐色土層 (ソフト、遺物わずか)
4. 黄褐色ブロック土 (地山まじり、遺物なし、かたくしまった土)] 出土物なし
5. 黒褐色土 (黄色土まじり)
6. 黄褐色土 (しまった土、遺物なし)

第9図 不明遺構 (S=1/60) 不明遺構出土遺物 (S=1/3)

第3章 小結

市場遺跡では第2章で述べたとおり4度の発掘調査が実施されている。遺跡の大半は古墳時代後期に比定される。また、官道沿いの条里内の微高地でも6世紀後半の住居跡が発掘されており、この時期の集落の広がりが推測される。

ここで市場遺跡周辺の明治21年の地目を概観し、小結とする。市場遺跡の北東部には沖代地区条里跡が古代から施工される。条里の南限には古代豊前道が通り、宇佐神宮へつながる。市場遺跡北西部に畑や宅地が散見され、微高地が条里内にあったと推測される。鶴居小学校のグラウンド東側半分は水田を埋め立て、西側の畑地を削平して造られたと考えられる。鶴居小学校グラウンドは未発掘のまま造られたのは痛恨である。小学校の南側や南西部には広大な畑地が広がり、三口遺跡、上万田遺跡、相原廃寺など弥生時代から奈良、平安時代に至る遺跡が立地する。三口遺跡では緑釉陶器などが出土し、勢力をもった集団の存在が窺われる。市場遺跡周辺は古墳時代後期に人口が増加し、奈良時代には下毛の中心を担う地域となったと考えられる。



第10図 市場遺跡周辺地目図

写真図版 1



発掘前風景



遺構検出状況



発掘風景

写真図版2



溝状遺構完掘 南より



竪穴住居、不明遺構検出状況



竪穴住居遺物出土状況

写真図版3



豎穴住居遺物出土狀況



豎穴住居完掘



不明遺構完掘

写真图版 4



報 告 書 抄 録

ふりがな	いちばいせき じはつくつちようさほうこくしょ							
書名	市場遺跡5次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第100集							
編著者名	花崎 徹							
編集機関	中津市教育委員会							
所在地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 Tel : 0979-22-1111							
発行年月日	2020年3月31日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	面積(m ²)	調査原因
いちばいせき 市場遺跡 5次調査	おおいたけんなかつし 大分県中津市 おおあびのや 大字湯屋225番地	44203	203040	33° 34' 29"	131° 11' 27"	2016.2.15 ～ 2016.3.28	210	鶴居小学校 校舎新築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
市場遺跡 5次調査	集落	古墳	竪穴住居 掘立柱建物	土師器 須恵器		古墳時代の 集落		
要約	古墳時代後期の竪穴住居1基と溝状遺構2条、時期不明の掘立柱建物1棟、時期不明、性格不明の遺構1基が調査された。							

市場遺跡5次発掘調査報告書

中津市文化財調査報告第100集

令和2年3月31日

発行 中津市教育委員会

印刷 榊川原田印刷社